

旧清水青年会議所

49

基本データ

創立：1953年
静岡県内で2番目、日本で49番目の青年会議所として発足した。

特色・独自の文化

LOMの人数が現在の静岡JCよりも少なかったところで、清水JCは特に人と人の繋がりが非常に強いものでした。例えば、例会後の懇親会などはいつもLOM全体で行われていました。同好会活動も盛んで、特にサッカー同好会は週一回集まり練習を行い、そこに地元の青少年も参加しての交流がありました。

LOMの規模としても小規模の為、限られた予算の中で工夫をして事業や例会を行っていました。その為、ほとんどの事業や例会は手作り感の強いものが多かったです。

事業 国際交流事業

清水JCは仁川青年会議所（韓国）、雲林国際青年会議所（台湾）の2JCと姉妹締結をしてました。韓国仁川JCとは1967年10月、清水JCが創立15周年の記念として、また、台湾雲林国際青年会議所とは1977年11月、同じく25周年記念事業として姉妹締結しました。姉妹JCは互いの国、互いのJCの経済・文化等の交流を深め、更には人的交流を深め大きな目的があると同時に、その子弟やそのJCのある町の育成にも役立っていました。主な事業としては、仁川へ日本のママさんバレーが出向する、ボーイスカウト同士の交流、サッカー少年団の派遣、習字・絵画等の交換などがこの姉妹JCの基行われてきました。国際交流事業では、言語の問題がありましたが、最終的にはスキンスリップにより、理解され、互いに審議を重ねることで交流を続けることができました。

事業 青少年開発事業

青少年開発事業は清水JC設立当時より永きに渡り、時代に合った様々な形で受け継がれている事業です。主な事業としては、1982年の「清水教育問題協議会」発足による教育問題に取り組む事業、1999年の「21世紀（あす）を担う青少年の心の教育」を目的に「青空熱血先生養成塾」と呼ばれる地域の青空熱血先生づくりの事業が立ち上がりました。「青空熱血先生養成塾」では、野外教育プログラムの研究を青空熱血先生養成塾の基本プログラムとして行い、塾生は野外教育プログラム実践の場を目指し、清水JCメンバーと共に、企画・立案・実行することで、自らの企画力・実行力及び責任感とリーダーシップを養っていきました。また、塾生（大学生）は、様々なJCの事業に参画させることでまちづくりの必要性・重要性を体験し、成長し自信をつけ、そして、社会人になったときに地元での熱血漢溢れるリーダーとして活躍できるよう事業を行ってきました。

事業 清水みなと祭り

みなと祭りは清水市がその勢力を集結して一大イベントを繰り広げる真夏の祭典です。1946年（昭和21年）、清水市と商工会議所が中心となり開催されたのが始まりです。ところが次第に衰退の傾向にあり、そこで1975年、祭りを見直すためのプロジェクトチームが発足、清水JCメンバーが中心となり他県、知識人の意見交換を経て、新生みなと祭りを作り上げました。清水みなと祭りは第40回の「港かつぱれ」の登場により大きく変わりました。各教育機関での踊りの指導にみられるように、祭りに対する市の取り組みも積極的になり、今では、静岡県を代表する「清水みなと祭り」となりました。しかし、その反面、伝統として続いてきた自治体単位での祭り参加の形態を壊してしまう結果となり、踊り会場はイベント的な色合いが濃くなってきました。そこで、再度、清水JCの活動により子どもからお年寄りまで、ご近所単位で祭りに参加できるようにと考えました。そこで、子どもと親と一緒に踊り会場に来ることができる「キッズ・パーク」を作りました。この活動が「もう一度、地域単位でのお祭り参加連の増加」「地域の活性化」と発展していきました。

事業 住民発議

清水JC運動の一環として、30数年来の懸案でありました、静岡市との合併問題に対する調査・研究の取り組みを行ってきました。そこで導き出された結論は「子ども達の未来のために今私たちができることは何か」ということでした。清水JCは、静岡合併の是非を公の場で語り合ってもらうため、住民主導の住民発議により、合併協議会の設置を求める活動を実施しました。住民発議により静岡市と清水市に合併協議会を設立するまで、まず、新駿河まちづくり委員会の設立（清水・静岡JCにて）して調査研究を行い、市民へのアピールを行ってきました。合併問題に対するアンケートを清水市民に対して行い、合併シミュレーションを発表してきました。そして、住民発議運動を清水JCの全体事業として行い、本格的に住民発議への取り組みを開始しました。署名活動を行うためのボランティアを集めながら、清水JCメンバーも署名収集活動に参加し、結果、4万を超える署名を収集し、提出しました。そして、1998年静岡市・清水市合併協議会が設立、新生静岡市設立へのきっかけとなりました。清水JCの活動は、合併協議会設立への住民発議だけで終わりはなく、その後、合併協議会の情報公開やタウンミーティング開催による啓蒙活動などまちづくりの原動力となる活動を行ってきました。

事業の特色について

特に力を入れていた事業としては、国際交流事業が挙げられます。特に代表的な大きな事業として50周年記念式典がございます。仁川青年会議所（韓国）と雲林国際青年会議所（台湾）のメンバーを招待、式典ゲストとして、麻生財務大臣なども呼び盛大に会を催しました。仁川JCと雲林JCとは姉妹締結しており、年に一回お互いの国を行き来しておりました。そして、仁川JCとの交流が特に親密に行われ、清水の料亭「玉川楼」に飾ってあった韓国の石像を仁川JCに寄贈し、現在も仁川戦争記念館近くの広場に展示されています。次に、青空熱血先生養成塾も挙げられます。青空熱血先生養成塾は未来学園にも似ていますが、メンバーは完全に設営と裏方となり、教員希望の学生が子どもたちを指導していた点がこの事業の特徴でした。現在も「JC」と呼ばれ、指導者を育成するプログラムとしてNPO法人が活動しております。LOMの規模としても小規模の為、これら事業も限られた予算の中で工夫をして行っていました。その為、ほとんどの事業や例会は手作り感の強いものが多かったです。



住民発議の様子



雲林JCとの交流



清水みなと祭り



仁川JCとの交流



青少年育成事業の様子